

子育て中の母親が感じる出産施設退院後から 出産後1年までの困難と求める支援

神谷 摂子¹

Postpartum difficulties and the support desired by mothers in the year after giving birth

Setsuko Kamiya¹

目的：研究機関周辺地域における，育児中の母親の出産施設退院後から1年までの困りごとと対処および希望支援を明らかにする．方法：子育て支援施設および幼児健診を利用した1歳以上の未就園児を持つ母親を対象に自記式質問紙調査を実施した．結果：有効回答は363部で，初産婦，低出生体重児，総合病院の出産，イベントの子育て広場参加者に困りごとが多く，全体の困りごとの内容は時期ごとに入れ替わるものの，「授乳」「寝不足」「子どもの泣き」「上の子の世話」「家事」が上位を占め，家族により対処し，さらに家族からの支援を希望していた．利用可能な支援の認知度は非常に低く，希望の費用も実際とかけ離れていた．考察：母親の困りごとや支援は，産後の支援が注目される以前と変化していない現状が明らかになった．その背景には各支援の認知度の低さや費用面での課題があり，産後の現状に合致する支援となっておらず，利用につながりにくいことが推察された．

キーワード：母親の困難，子育て支援，産後の支援，母親，産後ケア

I. 緒 言

我が国では核家族化が進み子育てに対する様々な問題が生じ，子ども虐待に対する相談件数は年々上昇している．「子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について」第15次報告（厚生労働省，2019）によると，虐待により死亡した子どもの年齢は0歳児が最も多く（53.8%），特に，月齢0か月児が50.0%と高い割合を占め，主たる加害者は母親（48.1%）が最も多い現状である．また，母親側の心理的・精神的問題として，「養育能力の低さ」や「育児不安」が挙げられており，産後うつが増加も指摘され，適切な対応が求められている（日本産婦人科医会，2017）．竹田（2017）によると，2005～2014年の10年間で東京23区において，妊産婦の自殺者は，産後3～6か月が40%を占め，そのうち50%が産後うつを併発していたことが報告されている．こうした状

況を受け，2014年に厚生労働省は，既存の母子保健サービスに加え各地域の特性に応じた妊娠から出産，子育て期まで切れ目ない支援を行う「妊娠・出産包括支援モデル事業」の実施を発表した（厚生労働省，2017）．このように妊娠期からの切れ目ない支援が重要といわれているが，その中でも出産施設退院後1週間～1か月が最も母親の育児不安が高い（島田他，2001）ことが明らかにされている．2009年度より，乳児家庭全戸訪問事業が児童福祉法に位置付けられたものの，虐待や妊産婦の自殺の問題がさらにクローズアップされたことで，さらなる産後の支援の重要性が高まり，2013年より出産施設退院後に活用できる産後ケア施設が全国で開設されはじめた．また，地域によっては産後2週間ごろの産婦を対象に，産婦健康診査を導入し母親のメンタルヘルスの問題を解決すべく取り組みも始まっている（鷺尾，馬場，木村，出石，中井，2013，坂梨，勝川，水野，臼井，鍋田，2014）．以上のように，出産後の支援に注目が集ま

¹愛知県立大学看護学部

り様々な取り組みがされているが、支援方法は各行政に任されており、地域により差がみられるのも事実である。また、行政だけでなく出産施設による独自の取り組みも報告されており各施設や行政で縦割りに実施されている(坂梨他, 2014)。産後の困難内容や支援方法については、先行研究により明らかにされているが、産後の支援に注目された現状において、母親の産後の困難や支援状況の変化については十分明らかにされていない。効果的で地域の実情に合った継続的な産後の支援が母子に提供されるためには、地域での子育て支援の実態と今後の課題を明らかにすることが必要であると考えた。そこで、本研究は産後の支援に注目が集まり、様々な産後の支援が取り組まれている現在、育児中の母親が出産施設退院後から出産後1年の間にどのような困難を経験し、どのような対処をしたか、また、どのような支援を求めているかを明らかにし、産後の支援に注目される以前の母親の困難内容や対処との比較を考察し、今後の産後の支援の在り方を検討したいと考えた。

II. 研究目的

本研究は、中部地方の中核都市の一部とその周辺地域における、育児中の母親の出産施設退院後から出産後1年間の困りごととその対処、またその時期に求める支援を明らかにすることを目的とした。

III. 研究方法

1. 調査対象

地域に合った子育て支援の検討資料とするため、今回は中部地方の中核都市の一部とその周辺地域の子育て支援施設および市区町村の幼児健康診査(以後、健康診査を健診とする)利用者で、1歳以上の未就園児を持つ母親を調査対象とした。

2. 調査期間

2018年9月～12月

3. データ収集方法

各施設の施設長および責任者に研究協力を依頼し、承諾を得て調査を実施した。対象者に対し、研究者が研究協力依頼を文書と口頭にて行い、無記名自記式質問紙を配布した。調査票の回収は留め置き式とし、その場での

回答が難しい場合、希望者には返信用封筒を渡し郵送法で回収した。

4. 調査内容

調査内容は、①母親の基本属性(年齢、初産・経産別(以後、初経産別)、家族形態、最終学歴、職業の有無、世帯年収、出産方法、出産施設、里帰りの有無、育児の主な支援者)②子どもの基本属性(性別、年齢、出生時体重)③産後の困りごとの有無と内容、対処方法、さらに希望する支援について出産施設退院後から1か月健診まで(以下退院～1M)、1か月健診から3,4か月健診まで(以下1M～3,4M)、3,4か月健診から1年まで(以下3,4M～1Y)の3つの時期に分けて対象者に振り返って回答を求めた。さらに⑤産後の支援の認知度と、各支援の1回の利用負担金額についても回答を求めた。

5. 分析方法

分析には統計解析ソフトIBM SPSS Statistics Version 26を用いた。母親および子どもの属性、時期ごとの困りごとの有無とその内容、対処方法、希望支援、サポートの認知度と希望金額については記述統計により傾向を検討した。また、基本属性と困りごとの有無と内容、対処方法、希望支援については χ^2 検定を行い、有意水準は5%とした(ただし、出産施設の助産院、対象者の年齢の20歳以下等、対象が少ないものは除いた)。

6. 倫理的配慮

施設長および施設責任者に文書を用いて研究目的や方法、倫理的配慮について説明し、調査協力の承諾を文書で得た。対象者への調査票の配布の際には、調査協力の強制力がかけられないように各施設の参加受付後、受付とは別の場所または終了後の出口付近で配布し、調査票とともに研究目的や方法、無記名の調査、自由意思による回答、個人情報の保護、途中辞退の自由等の倫理的配慮を明示した文書を配布し、回収箱の投函または返送をもって同意が得られたものとする旨を説明した。協力の諾否が広場や幼児健診に全く影響せず、その後の広場参加は自由であることを十分に伝え、回答の有無にかかわらず回収箱への投函を依頼した。また、未就園児を見守りながらの回答になるため、困難な場合は協力はお断りいただくか調査票を持ち帰るなど、子どもの安全を第一優先にして回答くださるよう説明した。本研究は、愛知県立大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した

(承認番号：30愛県大学情第6-23号)。

IV. 結 果

調査票は568部配布，回収数381部（回収率67.1%），有効回答数363部（95.3%）であった。

1. 対象者の属性（表1）

対象者の年代は，26歳～40歳で約9割を占め，31～35歳が最も多かった。初経産別は約半々で，核家族が9割以上であり，専業主婦が約6割を占めていた。最終学歴は大学卒が約5割で最も多く，世帯年収は400～799万円が6割を占めていた。出産施設は産科病院が最も多く，次いでクリニックであった。出産方法は経膣分娩が約8割であった。里帰りをした人は約6割で主な支援者は夫が8割，実母が6割の順で多かった。子どもについては，性別は男女約半々で，出生時の体重2,500g以上が約9割を占めていた。また，現在の子どもの年齢は1歳が8割以上で，調査場所は幼児健診が6割以上を占めていた。

2. 困りごとの有無と内容（表2）

困りごとの有無では，退院～1Mが58.7%，1M～3,4Mは56.9%，3,4M～1Yは54.5%で全ての時期で全体の5～6割の母親が困りごと「あり」と回答した。「授乳」「寝不足」は退院～1Mに多く，「家事」は1か月以降に多くなっていた。全ての期間を通して「子どもの泣き」「上の子の世話」が多かった。

3. 対象者の基本属性と困りごとの有無との関連（表3）

対象者の基本属性と困りごとの有無との関連では、『初経産別』『出生時体重』『出産施設』『調査場所』について関連が有意であった。関連が有意であった項目を表3に示す。『初経産別』では，出産施設退院後から1年までの全ての時期において関連が有意であり，初産婦の方が困りごとが多かった。また『出生時体重』では1M～3,4M，3,4M～1Yに関連が有意であり，2,500g未満は困りごと「あり」の回答が多いことが示された。

『出産施設』では，1M～3,4Mと3,4M～1Yに関連が有意であり，残差分析の結果いずれの時期も総合病院の人は困りごと「あり」と回答した人が多く，産科病院では少なかった。

『調査場所』では全ての時期において関連が有意であり，残差分析の結果全ての時期でイベント的子育て広場

の人は困りごと「あり」の回答が多く，幼児健診の人は少なかった。

表 1. 対象者の属性 n=363

項目	分類	人	(%)
年齢	20歳以下	1	(0.3)
	21～25歳	13	(3.6)
	26～30歳	73	(20.1)
	31～35歳	154	(42.4)
	36～40歳	99	(27.3)
	41歳以上	23	(6.3)
初産・経産別	初産婦	179	(49.3)
	経産婦	184	(50.7)
家族構成	核家族	336	(92.6)
	複合家族	27	(7.4)
職業	専業主婦	200	(55.1)
	就業有(育児休暇中)	57	(15.7)
	就業有(就業中)	104	(28.6)
	無回答	2	(0.6)
最終学歴	中学	9	(2.5)
	高校	57	(15.7)
	専修学校	58	(16.0)
	短期大学	61	(16.8)
	大学	169	(46.6)
	大学院	7	(1.9)
	無回答	2	(0.6)
年収	200万円未満	6	(1.7)
	200～399万円	48	(13.2)
	400～599万円	133	(36.6)
	600～799万円	101	(27.8)
	800～999万円	47	(12.9)
	1000万円以上	17	(4.7)
	無回答	11	(3.0)
出産施設	総合病院の産科	91	(25.1)
	産科病院	161	(44.4)
	クリニック	107	(29.5)
	助産所	2	(0.6)
	無回答	2	(0.6)
出産方法	経膣分娩	273	(75.2)
	帝王切開	90	(24.8)
里帰りの有無	有	228	(62.8)
	無	132	(36.4)
	無回答	3	(0.8)
主な支援者 (複数回答)	夫	305	(84.0)
	実母	240	(66.1)
	実父	78	(21.5)
	義母	69	(19.0)
	義父	25	(6.9)
	きょうだい	48	(13.2)
	友人	8	(2.2)
	その他	10	(2.8)
子どもの性別	男児	177	(48.8)
	女児	184	(50.7)
	無回答	2	(0.6)
子どもの出生時体重	2500g以上	313	(86.2)
	2500g未満	23	(6.3)
	無回答	27	(7.4)
現在の子どもの年齢	1歳	310	(85.4)
	2歳	25	(6.9)
	3歳	15	(4.1)
	無回答	13	(3.6)
調査施設	定期開催の子育て広場	73	(20.1)
	イベント的子育て広場	47	(13.0)
	市町村の幼児健診	243	(66.9)

表 2. 出産施設退院後から出産後 1 年までの困りごと
人(%)

項目	施設退院後～ 1か月健診	1か月健診～ 3, 4か月健診	3, 4か月健診～ 1年
困りごとの有無 (n=363)	あり 213 (58.7) なし 150 (41.3) 無回答	206 (56.9) 157 (43.1)	198 (54.5) 161 (44.4) 4 (1.1)
授乳	119 (55.9)	78 (37.9)	39 (19.7)
寝不足	98 (46.0)	68 (33.0)	53 (26.8)
子どもの泣き	65 (30.5)	76 (36.9)	68 (34.3)
上の子の世話	56 (26.3)	61 (29.6)	54 (27.3)
家事	51 (23.9)	84 (40.8)	82 (41.1)
自分の体調	44 (20.7)	28 (13.6)	24 (12.1)
抱っこ	20 (9.4)	21 (10.2)	23 (11.6)
沐浴	16 (7.5)	20 (9.7)	13 (6.6)
子どもの体調	14 (6.6)	16 (7.8)	25 (12.6)
夫の非協力	13 (6.1)	22 (10.7)	16 (8.1)
他育児	8 (3.8)	10 (4.9)	36 (18.2)
家族の非協力	8 (3.8)	9 (4.4)	8 (4.0)
おむつ交換	7 (3.3)	9 (4.4)	5 (2.5)
経済的心配	6 (2.8)	7 (3.4)	13 (6.6)
その他	17 (8.0)	19 (9.2)	35 (17.7)

困りごとの(%)は、各時期の困りごと有の全体の割合を示す。
困りごとの有無以外は複数回答とする。

表 3. 対象者の基本属性と時期別の困りごとの有無との
関連 人(%) n=363

時期	困難の有無	基本属性		計	P値
		初産婦・経産婦別			
		あり	なし		
出産施設退院後 ～1か月健診まで	初産婦	129 (72.1)	50 (27.9)	179 (100.0)	**
	経産婦	84 (45.7)	100 (54.3)	184 (100.0)	
	計	213 (58.7)	150 (41.3)	363 (100.0)	
1か月健診 ～3.4か月健診ま で	初産婦	116 (64.8)	63 (35.2)	179 (100.0)	**
	経産婦	90 (49.2)	93 (50.8)	183 (100.0)	
	計	206 (56.9)	156 (43.1)	362 (100.0)	
3.4か月健診 ～1年まで	初産婦	112 (62.6)	67 (37.4)	179 (100.0)	**
	経産婦	86 (47.8)	94 (52.2)	180 (100.0)	
	計	198 (55.2)	161 (44.8)	359 (100.0)	
		児の出生時体重別			
		あり	なし		
出産施設退院後 ～1か月健診まで	2,500g以上	182 (58.1)	131 (41.9)	313 (100.0)	
	2,500g以下	16 (69.6)	7 (30.4)	23 (100.0)	
	計	198 (58.9)	138 (41.1)	336 (100.0)	
1か月健診 ～3.4か月健診ま で	2,500g以上	172 (55.1)	140 (44.9)	312 (100.0)	*
	2,500g以下	18 (78.3)	5 (21.7)	23 (100.0)	
	計	190 (56.7)	145 (43.3)	335 (100.0)	
3.4か月健診 ～1年まで	2,500g以上	166 (53.7)	143 (46.3)	309 (100.0)	*
	2,500g以下	17 (73.9)	6 (26.1)	23 (100.0)	
	計	183 (93.1)	149 (6.9)	332 (100.0)	
		出産施設別(助産所除く)			
		あり	なし		
出産施設退院後 ～1か月健診まで	総合病院	60 (65.9)	31 (34.1)	91 (100.0)	
	産科病院	87 (54.0)	74 (46.0)	161 (100.0)	
	クリニック	64 (59.8)	43 (40.2)	107 (100.0)	
	計	211 (58.8)	148 (41.2)	359 (100.0)	
1か月健診 ～3.4か月健診ま で	総合病院	61 (67.0)	30 (33.0)	91 (100.0)	*
	産科病院	79 (49.4)	81 (50.6)	160 (100.0)	
	クリニック	64 (59.8)	43 (40.2)	107 (100.0)	
	計	204 (57.0)	154 (43.0)	358 (100.0)	
3.4か月健診 ～1年まで	総合病院	60 (66.7)	30 (33.3)	90 (100.0)	*
	産科病院	78 (49.4)	80 (50.6)	158 (100.0)	
	クリニック	58 (54.2)	49 (45.8)	107 (100.0)	
	計	196 (55.2)	159 (44.8)	355 (100.0)	
		調査場所別			
		あり	なし		
出産施設退院後 ～1か月健診まで	定期開催の 子育て広場	44 (60.3)	29 (39.7)	73 (100.0)	*
	イベント的 子育て広場	36 (36.6)	11 (23.4)	47 (100.0)	
	1歳6か月 健診	133 (54.7)	110 (45.3)	243 (100.0)	
	計	213 (58.7)	150 (41.3)	363 (100.0)	
1か月健診 ～3.4か月健診ま で	定期開催の 子育て広場	43 (58.9)	30 (41.1)	73 (100.0)	**
	イベント的 子育て広場	36 (75.6)	11 (23.4)	47 (100.0)	
	1歳6か月 健診	127 (52.5)	115 (47.5)	242 (100.0)	
	計	206 (56.9)	156 (43.1)	362 (100.0)	
3.4か月健診 ～1年まで	定期開催の 子育て広場	41 (56.9)	31 (43.1)	72 (100.0)	**
	イベント的 子育て広場	37 (78.7)	10 (21.3)	47 (100.0)	
	1歳6か月 健診	120 (50.0)	120 (50.0)	240 (100.0)	
	計	198 (55.2)	161 (44.8)	359 (100.0)	

χ^2 検定 * p < .05 ** p < .01

基本属性と時期別の困りごとについて有意な関連が認められた4項目を示す。

4. 対象者の基本属性間と困りごとの内容との関連(表4)

関連が有意であったもののみ表4に示す。

1) 出産施設退院後～1か月健診まで

『初経産別』ではいくつかの項目で有意な関連がみられた。初産婦に多かった内容は「授乳」「子どもの泣き」「寝不足」で、経産婦では「家事」であった。

また『里帰りの有無』では、里帰り有群が「授乳」で困った人が多く、里帰り無群は「上の子の世話」「家事」が有意に多かった。さらに『子どもの性別』では男児の方が「抱っこ」に困った人が多く、『調査場所』では定期開催の子育て広場の母親に「上の子の世話」が有意に多かった。その他の項目では有意な関連はみられなかった。

表 4. 対象者の基本属性間と困りごとの内容との関連

人(%)

		時期	出産施設退院後～1か月健診まで			1か月健診～3.4か月健診まで			3.4か月健診～1年まで		
		内容	困りごとの有無			困りごとの有無			困りごとの有無		
			あり	なし	残差	あり	なし	残差	あり	なし	残差
初経産別	授乳	初産婦	99 (76.7)	30 (23.3)	**	56 (48.3)	60 (51.7)	**	29 (25.9)	83 (74.1)	*
		経産婦	20 (23.8)	64 (76.2)		22 (24.4)	68 (75.6)		10 (11.6)	76 (88.4)	
	児の泣き	初産婦	57 (44.2)	72 (55.8)	**	62 (53.4)	54 (46.6)	**	48 (42.9)	64 (57.1)	**
		経産婦	8 (9.5)	76 (90.5)		14 (15.6)	76 (84.4)		20 (23.3)	66 (76.7)	
	家事	初産婦	22 (17.1)	107 (82.9)	**						
		経産婦	29 (34.5)	55 (65.5)							
	寝不足	初産婦	75 (58.1)	54 (41.9)	**	48 (41.4)	68 (58.6)	**	38 (33.9)	74 (66.1)	**
		経産婦	23 (27.4)	61 (72.6)		20 (22.2)	70 (77.8)		15 (17.4)	71 (82.6)	
職業	授乳	主婦							30 (26.3)	84 (73.7)	**
		就業有(育休中)							6 (18.2)	27 (81.8)	主婦に「あり」が有意に多く**
出産施設	家事	就業有(就業中)							3 (5.9)	48 (94.1)	就業中に「なし」が多い**
		総合病院							24 (40.0)	36 (60.0)	**
		産科病院							24 (30.8)	54 (69.2)	産科病院に「なし」が有意に多く*
	上の子の世話	クリニック							33 (56.9)	25 (43.1)	クリニックに「あり」が有意に多い**
		総合病院							11 (18.3)	49 (81.7)	*
		産科病院							20 (25.6)	58 (74.4)	クリニックに「あり」が有意に多い*
	自分の体調	クリニック							23 (39.7)	35 (60.3)	
		経産婦分娩帝王切開				16 (10.6)	135 (89.4)	*			
里帰りの有無	授乳	里帰り有	87 (62.1)	53 (37.9)	*	12 (21.8)	43 (78.2)				
		里帰り無	32 (44.4)	40 (55.6)							
	児の泣き	里帰り有				55 (43.0)	73 (57.0)	*			
		里帰り無				21 (26.9)	57 (73.1)				
	抱っこ	里帰り有							20 (15.3)	111 (84.7)	*
		里帰り無							3 (4.5)	64 (95.5)	
	家事	里帰り有	21 (15.0)	119 (85.0)	**						
		里帰り無	29 (40.3)	43 (59.7)							
子どもの性別	寝不足	里帰り有							42 (32.1)	89 (67.9)	*
		里帰り無							11 (16.4)	56 (83.6)	
	上の子の世話	里帰り有	29 (20.7)	111 (79.3)	**						
		里帰り無	27 (37.5)	45 (62.6)							
	授乳	男児				45 (44.6)	56 (55.4)	*			
		女児				32 (31.1)	71 (68.9)				
	抱っこ	男児	15 (14.3)	90 (85.7)	*						
		女児	5 (4.7)	101 (95.3)							
調査場所	他育児(沐浴、抱っこ、おむつ交換以外)	男児							12 (11.3)	93 (88.6)	*
		女児							23 (25.0)	69 (75.0)	
	授乳	定期開催の子育て広場							10 (24.4)	31 (75.6)	*
		イベント的子育て広場							13 (35.1)	24 (64.9)	イベント的広場は「あり」が有意に多く**
	上の子の世話	幼児健診							16 (13.3)	104 (86.7)	健診は「なし」が有意に多い**
		定期開催の子育て広場	18 (40.9)	26 (59.1)	*	20 (46.5)	23 (53.5)	*			
	幼児健診	イベント的子育て広場	5 (13.9)	31 (86.1)	定期開催広場は「あり」が有意に多い*	9 (25.0)	27 (75.0)	定期開催広場は「あり」が有意に多い**			
		幼児健診	33 (24.8)	100 (75.2)		32 (25.2)	95 (74.8)				

χ²検定 *p<.05 **p<.01

基本属性と困りごとの内容について有意な関連が認められた項目を示す。

2) 1か月健診から3,4か月健診まで

『初経産別』では「授乳」「子どもの泣き」「寝不足」に関連が有意であり、いずれも初産婦に多かった。また『出産方法』では帝王切開が「自分の体調」に困った人が有意に多かった。『里帰りの有無』では「子どもの泣き」が里帰り有群に多く、『子どもの性別』では男児に「授乳」に困った人が多かった。『調査場所』では残差分析の結果、定期開催の子育て広場の人に「上の子の世話」に困っている人が有意に多かった。その他の項目に有意な関連はみられなかった。

3) 3,4か月健診～1年まで

『初経産別』では1M～3,4Mと同様に「授乳」「子どもの泣き」「寝不足」で有意な関連がみられ、いずれも初産婦の方が困っていた。また『職業』では「授乳」について有意な関連がみられ、残差分析の結果、専業主婦に有意に多く、就業中の人に有意に少なかった。『出産施設』では「上の子の世話」「家事」に有意な関連がみられ、残差分析の結果、どちらもクリニックの人が有意に多く、「家事」のみ産科病院の人が有意に少なかった。さらに『里帰りの有無』では「抱っこ」「寝不足」が里帰り有群に有意に多かった。『子どもの性別』では女児に「他育児」（沐浴、抱っこ、おもむ交換以外）に困った人が多く、『調査場所』では「授乳」に有意な関連がみられ、残差分析の結果イベント的子育て広場の人は「授乳」に困った人が有意に多く、幼児健診の人は有意に少なかった。

5. 困りごとへの対処について（表5）

困りごとへの対処についてはどの時期も全体の約8～9割が「家族のサポート」と回答し、主に実母と夫であった。「出産施設の健診」は退院～1Mで約2割でそれ以降は減少し、3,4M～1Yで「母親同士の交流」が約2割と増加した。全ての期間を通して「友人の支援」「情報サイト」が約1割であり、「デイサービス」「ショートステイ」の利用は1割以下であった。出産施設の健診も含め専門職の支援で対処した人は約2～3割であり「家事・育児ヘルパー」の利用は約1～2%であった。

表5. 出産施設退院後から出産後1年までの困りごとへの対処 人(%) (複数回答)

項目	施設退院後～ 1か月健診	1か月健診～ 3,4か月健診	3,4か月健診～ 1年
家族のサポート	191 (89.7)	169 (82.0)	156 (78.8)
出産施設の健診	44 (20.7)	12 (5.8)	2 (1.0)
友人のサポート	29 (13.6)	24 (11.7)	30 (15.2)
情報サイト	27 (12.7)	25 (12.1)	27 (13.6)
助産師の家庭訪問	13 (6.1)	12 (5.8)	2 (1.0)
デイサービス	12 (5.6)	11 (5.3)	7 (3.5)
保健師の家庭訪問	11 (5.2)	8 (3.9)	1 (0.5)
電話相談	8 (3.8)	8 (3.9)	6 (3.0)
育児教室	4 (1.9)	7 (3.4)	11 (5.6)
母親同士の交流	3 (1.4)	14 (6.8)	38 (19.2)
家事ヘルパー	1 (0.5)	1 (0.5)	4 (2.0)
育児ヘルパー	1 (0.5)	1 (0.5)	1 (0.5)
ショートステイ	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
その他	13 (6.1)	21 (10.2)	25 (12.6)
何もせず	10 (4.7)	16 (7.8)	15 (7.6)

困りごとの対処の(%)は、各時期の困りごと有の全体の割合を示す。

6. 対象者の基本属性間と困りごとへの対処との関連(表6)
関連が有意であったもののみ表6に示す。

1) 出産施設退院後～1か月健診まで

『初経産別』でいくつかの項目で関連がみられた。初産婦に多かった対処は、「出産施設の健診」「専門職の支援」「情報サイト」であった。また『里帰りの有無』では「出産施設の健診」に、『子どもの性別』では「助産師の家庭訪問」に有意な関連がみられた。さらに『調査場所』では「出産施設の健診」に有意な関連がみられ、残差分析の結果、イベント的子育て広場の人は対処として活用「あり」が有意に多く、幼児健診の人は活用「なし」が有意に多かった。その他の項目に有意な関連はみられなかった。

2) 1か月健診から3,4か月健診まで

『里帰りの有無』で「情報サイト」に有意な関連がみられ、その他項目に有意な関連はみられなかった。

3) 3,4か月健診から1年まで

『初経産別』で「母親同士の交流」に、『里帰りの有無』では「情報サイト」に有意な関連がみられた。『調査場所』では「友人」「情報サイト」「母親同士の交流」に有意な関連がみられ、残差分析の結果「友人」は定期開催の子育て広場の人に対処として活用「あり」が多く、幼児健診の人には活用「なし」が多かった。また「情報サイト」はイベント的子育て広場の人に活用「あり」が有意に多

表 6. 対象者の基本属性間と困りごとへの対処方法との関連

人(%)

時期		出産施設退院後～1か月健診まで			1か月健診～3.4か月健診まで			3.4か月健診～1年まで			
項目	初経別	対処として活用の有無		残差	対処として活用の有無		残差	対処として活用の有無		残差	
		あり	なし		あり	なし		あり	なし		
初経別	出産施設の健診	初産婦 経産婦	37 (29.4) 7 (8.3)	89 (70.6) 77 (91.7)	**						
	専門職の支援	初産婦 経産婦	52 (41.3) 14 (16.7)	74 (58.7) 70 (83.3)	**						
	情報サイト	初産婦 経産婦	21 (16.7) 6 (7.1)	105 (83.3) 78 (92.9)	*						
	母親同士の交流	初産婦 経産婦						32 (28.6) 6 (7.0)	80 (71.4) 80 (93.0)	**	
	健診	里帰り有 里帰り無	36 (25.9) 8 (11.4)	103 (74.1) 62 (88.6)	*						
里帰りの有無	情報サイト	里帰り有 里帰り無				23 (18.3) 2 (2.5)	103 (81.7) 78 (97.5)	**	24 (18.5) 3 (4.4)	106 (81.5) 65 (95.6)	**
子どもの性別	助産師の家庭訪問	男児 女児	11 (10.7) 2 (1.9)	92 (89.3) 103 (98.1)	**						
	出産施設の健診	定期開催の子育て広場 イベント的子育て広場 幼児健診	12 (27.3) 12 (33.3) 20 (15.4)	32 (72.7) 24 (66.7) 110 (84.6)	* 定期開催広場は「あり」が有意に多く* 健診は「なし」が有意に多い*						
調査場所	友人	定期開催の子育て広場 イベントの子育て広場 幼児健診							13 (32.5) 4 (10.5) 13 (10.8)	27 (67.5) 34 (89.5) 107 (89.2)	** 定期開催広場は「あり」が有意に多く** 健診は「なし」が有意に多い*
	情報サイト	定期開催の子育て広場 イベントの子育て広場 幼児健診							4 (10.0) 11 (28.9) 12 (10.0)	36 (90.0) 27 (71.1) 108 (90.0)	** イベントの広場は「あり」が有意に多い**
	母親同士の交流	定期開催の子育て広場 イベントの子育て広場 幼児健診							8 (20.0) 16 (42.1) 14 (11.7)	32 (80.0) 22 (57.9) 106 (88.3)	** イベントの広場は「あり」が有意に多く** 健診は「なし」が有意に多い**

χ²検定 *p<.05 **p<.01

基本属性と困りごとの対処について有意な関連が認められた項目を示す。

かった。「母親同士の交流」ではイベント的子育て広場の人に対処として活用「あり」が有意に多く、幼児健診の人は活用「なし」が有意に多かった。それ以外の項目に有意な関連はみられなかった。

7. 希望する支援について（表7）

出産施設退院後から1年間に何らかの支援を希望する母親は退院～1Mが59.5%，1M～3,4Mは63.4%，3,4M～1Yは60.8%で全ての時期において約6割であった。各時期の希望支援内容を表7に示す。「家族のサポート」が5割以上で最も多く、産後日数が経過するに従って微増していた。また家庭訪問や健診などの専門職による支援は退院～1Mが多くその後減少した。逆に「母親同士の交流」や「育児教室」は増加し3,4M～1Yが最も多かった。「家事・育児ヘルパー」は退院～1Mが最も少なくその後増加した。

表 7. 出産施設退院後から出産後1年までに希望する支援人(%)

項目		施設退院後～ 1か月健診	1か月健診～ 3,4か月健診	3,4か月健診～ 1年
希望する支援 (n=363)	あり	216 (59.5)	230 (63.4)	220 (60.8)
	なし	147 (40.5)	133 (36.6)	143 (39.2)
家族のサポート		111 (51.4)	120 (52.2)	124 (56.4)
家事ヘルパー		49 (22.7)	64 (27.8)	57 (25.9)
助産師の家庭訪問		39 (18.1)	24 (10.4)	13 (5.9)
育児ヘルパー		36 (16.7)	39 (17.0)	41 (18.6)
母親同士の交流		33 (15.3)	56 (24.4)	57 (25.9)
育児教室		30 (13.9)	42 (18.3)	47 (21.4)
出産施設の健診		28 (13.0)	17 (7.4)	13 (5.9)
保健師の家庭訪問		22 (10.2)	19 (8.3)	19 (8.6)
ショートステイ		20 (9.3)	19 (8.3)	14 (6.4)
デイサービス		14 (6.5)	11 (4.8)	9 (4.1)
情報サイト		11 (5.1)	9 (3.9)	11 (5.0)
電話相談		10 (4.6)	9 (3.9)	10 (4.5)
友人のサポート		6 (2.8)	4 (1.7)	10 (4.5)
その他		8 (3.7)	7 (3.0)	8 (3.6)

希望する支援の(%)は、何らかの支援を希望する人全体の割合を示す。

困りごとの有無以外は複数回答とする。

表 8. 対象者の基本属性間と希望する支援との関連

人 (%)

		時期	出産施設退院後～1か月健診まで			1か月～3.4か月健診まで			3.4か月健診～1年まで		
項目			希望の有無			希望の有無			希望の有無		
			あり	なし	残差	あり	なし	残差	あり	なし	残差
初経別	出産施設の健診	初産婦	23 (14.0)	141 (86.0)	**				10 (6.3)	150 (93.8)	*
		経産婦	6 (3.6)	162 (96.4)					3 (1.8)	167 (98.2)	
	専門職の支援	初産婦	54 (32.9)	110 (67.1)	**	54 (32.5)	112 (67.5)	**	54 (33.8)	106 (66.3)	**
		経産婦	24 (14.3)	144 (85.7)		25 (15.1)	141 (84.9)		22 (12.9)	148 (87.1)	
	家事ヘルパー	初産婦							16 (10.0)	144 (90.0)	**
		経産婦							41 (24.1)	129 (75.9)	
	育児ヘルパー	初産婦	10 (6.1)	154 (83.9)	**	10 (6.0)	156 (94.0)	**	13 (8.1)	147 (91.9)	*
		経産婦	26 (15.5)	142 (84.5)		29 (17.5)	137 (82.5)		28 (16.5)	142 (83.5)	
	非専門職の支援	初産婦				26 (15.7)	140 (84.3)	**	22 (13.8)	138 (86.3)	**
		経産婦				46 (27.5)	121 (72.5)		47 (27.6)	123 (72.4)	
職業	育児教室	初産婦	22 (13.4)	142 (86.6)	**	33 (19.9)	133 (80.1)	**	35 (21.9)	125 (78.1)	**
		経産婦	8 (4.8)	160 (95.2)		9 (5.4)	157 (94.6)		12 (7.1)	158 (92.9)	
	母親同士の交流	初産婦	23 (14.0)	141 (86.0)	*	43 (25.9)	123 (74.1)	**	43 (26.9)	117 (73.1)	**
		経産婦	10 (6.0)	158 (94.0)		13 (7.8)	153 (92.2)		14 (8.2)	156 (91.8)	
	デイサービス	初産婦	12 (7.3)	152 (92.7)	**						
		経産婦	2 (1.2)	166 (98.8)							
	家族	主婦				65 (34.9)	121 (65.1)	*			
		就業有(育休中)				26 (52.0)	24 (48.0)				
		就業有(就業中)				29 (30.2)	67 (69.8)				
	専門職の支援	主婦				44 (23.8)	141 (76.2)	*			
		就業有(育休中)				18 (36.0)	32 (64.0)				
		就業有(就業中)				16 (16.7)	80 (83.3)				
出産施設	家事ヘルパー	総合病院							20 (24.1)	63 (75.9)	*
		産科病院							16 (11.1)	128 (88.9)	
		クリニック							17 (17.2)	82 (82.8)	
	育児ヘルパー	総合病院				16 (18.4)	71 (81.6)	*			
		産科病院				9 (6.3)	134 (93.7)				
		クリニック				13 (13.3)	85 (86.7)				
	非専門職の支援	総合病院							25 (30.1)	58 (69.9)	*
		産科病院							20 (13.9)	124 (86.1)	
		クリニック							20 (20.2)	79 (79.8)	
里帰りの有無	専門職の支援	里帰り有				56 (27.6)	147 (72.4)	*	55 (27.1)	148 (72.9)	*
		里帰り無				21 (16.5)	106 (83.5)		19 (15.2)	106 (84.8)	
	家事ヘルパー	里帰り有	20 (9.8)	185 (90.2)	**				27 (13.3)	176 (86.7)	*
		里帰り無	30 (24.0)	95 (76.0)					30 (24.0)	95 (76.0)	
	育児ヘルパー	里帰り有	13 (6.3)	192 (93.7)	**						
		里帰り無	23 (18.4)	102 (81.6)							
	非専門職の支援	里帰り有	26 (12.7)	179 (87.3)	**						
		里帰り無	40 (32.0)	85 (68.0)							
	育児教室	里帰り有				31 (15.3)	172 (84.7)	*	35 (17.2)	168 (82.8)	*
		里帰り無				10 (7.9)	117 (92.1)		11 (8.8)	114 (91.2)	
子どもの性別	母親同士の交流	里帰り有							42 (20.7)	161 (79.3)	*
		里帰り無							14 (11.2)	111 (88.8)	
	家族	男児				68 (41.5)	96 (58.5)	*			
		女児				50 (29.9)	117 (70.1)				
	デイサービス	男児	3 (1.8)	160 (98.2)	*						
		女児	11 (6.6)	156 (93.4)							
	ショートステイ	男児				14 (8.5)	150 (91.5)		11 (6.7)	153 (93.3)	*
		女児				4 (2.4)	162 (97.6)		3 (1.8)	162 (98.2)	
	出生時体重	2500g以上				63 (22.0)	223 (78.0)	*	58 (20.3)	228 (79.7)	**
		2500g未満				10 (43.5)	13 (56.5)		12 (54.5)	10 (45.5)	
調査場所	専門職の支援	定期開催の子育て広場	15 (22.1)	53 (77.9)	*	16 (23.5)	52 (76.5)	*	14 (20.9)	53 (79.1)	**
		イベントの子育て広場	18 (39.1)	28 (60.9)		17 (39.5)	26 (60.5)		18 (41.9)	25 (58.1)	
		幼児健診	45 (20.6)	173 (79.4)	**	46 (20.8)	175 (79.2)	**	44 (20.0)	176 (80.0)	**
		定期開催の子育て広場				10 (14.7)	58 (85.3)				
	非専門職の支援	イベントの子育て広場				15 (34.9)	28 (65.1)	*			
		幼児健診				47 (21.2)	175 (78.8)				
	育児教室	定期開催の子育て広場							11 (16.4)	56 (83.6)	*
		イベントの子育て広場							11 (25.6)	32 (74.4)	
		幼児健診							25 (11.4)	195 (88.6)	**

χ²検定 *p<.05 **p<.01

基本属性と希望する支援について有意な関連が認められた項目を示す。

8. 対象者の基本属性間と希望する支援との関連 (表8)

関連が有意であったもののみ表8に示す。

1) 出産施設退院後～1か月健診まで

『初経産別』でいくつかの項目に有意な関連がみられた。初産婦に多かったのは、「出産施設の健診」「専門職の支援」「育児教室」「母親同士の交流」「デイサービス」であり、経産婦に有意に多かったのは「育児ヘルパー」であった。また、「里帰りの有無」では里帰り無群が有意に多かったのが「家事・育児ヘルパー」などの「非専門職の支援」であった。さらに『子どもの性別』では「デイサービス」に有意な関連がみられ、女兒が有意に多かった。また『調査場所』では「専門職の支援」に有意な関連がみられ、残差分析の結果イベント的子育て広場の人に有意に多かった。その他の項目に有意な関連はみられなかった。

2) 1か月健診から3,4か月健診まで

『初経産別』では「専門職の支援」「家事ヘルパー」「非専門職の支援」「育児教室」「母親同士の交流」に有意な関連がみられた。初産婦に多かったのは「専門職の支援」「育児教室」「母親同士の交流」であり、それ以外は経産婦に有意に多かった。また職業では「家族」と「専門職の支援」に有意な関連がみられ、残差分析の結果どちらも育児休暇中の人に有意に多かった。『出産施設』では「育児ヘルパー」に有意な関連がみられ、残差分析の結果総合病院の人に「あり」が有意に多く、産科病院の人に「なし」が有意に多かった。そして『里帰りの有無』では「専門職の支援」「育児教室」に有意な関連がみられ、どちらも里帰り有群の希望が有意に多かった。さらに『子どもの性別』では「家族」「ショートステイ」が男児に有意に多かった。『出生時体重』では「専門職の支援」が2,500g未満の人に有意に多く、『調査場所』では「専門職の支援」「非専門職の支援」に有意な関連がみられ、どちらもイベントの子育て広場の人が有意に希望が多かった。その他の項目に有意な関連はみられなかった。

3) 3,4か月健診から1年まで

『初経産別』に「出産施設の健診」「専門職の支援」「家事ヘルパー」「育児ヘルパー」「非専門職の支援」「育児教室」「母親同士の交流」に有意な関連がみられた。初産婦に多かったのは「出産施設の健診」「専門職の支援」

「育児教室」「母親同士の交流」であり、それ以外は経産婦に有意に多かった。また『出産施設』では「家事ヘルパー」「非専門職の支援」に有意な関連がみられ、残差分析の結果どちらも総合病院の人に「あり」が有意に多く、産科病院の人に「なし」が有意に多かった。そして『里帰りの有無』では「専門職の支援」「家事ヘルパー」「育児教室」「母親同士の交流」に有意な関連がみられ、「家事ヘルパー」は里帰り無群が多く、それ以外は里帰り有群が有意に多かった。さらに『子どもの性別』では「ショートステイ」が男児に有意な関連がみられ、『出生時体重』では「専門職の支援」が2,500g未満の人に有意に多かった。『調査場所』では「専門職の支援」「育児教室」に有意な関連がみられ、どちらもイベントの子育て広場の人が有意に多く、「育児教室」は幼児健診の人が有意に少なかった。その他の項目に有意な関連はみられなかった。

9. 産後のサポートの認知度と希望金額 (表9)

産後のサポートの認知度は、「保健師の家庭訪問」は約7割が、「助産師の家庭訪問」は約3割が「知っている」と回答した。他に約7割の人が「知っている」と回答したのは「出産施設の健診」「電話相談」であり、「家事ヘルパー」「育児ヘルパー」は3割以下であった。「デイサービス」「ショートステイ」はどちらも2割以下の認知度であった。

各支援の利用負担金額は「保健師・助産師の家庭訪問」には約6～7割が、「電話訪問」は9割以上が0円を希望した。「家事・育児サポート」は500円～1万円と幅広く、どちらも1,000～2,000円が約2～3割であった。「デイサービス」は約4割が0円を希望し、500～1,000円が多

表 9. 産後のサポートの認知度

人(%) n=363

項目	知っている	知らない	無回答
電話相談	254 (70.0)	89 (24.5)	20 (5.5)
出産施設の健診	253 (69.7)	90 (24.8)	20 (5.5)
保健師の家庭訪問	250 (68.9)	93 (25.6)	20 (5.5)
母親同士の交流	170 (46.8)	173 (47.7)	20 (5.5)
助産師の家庭訪問	100 (27.5)	243 (66.9)	20 (5.5)
家事ヘルパー	100 (27.5)	243 (68.9)	20 (5.5)
育児教室	99 (27.3)	244 (67.2)	20 (5.5)
育児ヘルパー	81 (22.3)	262 (72.2)	20 (5.5)
ショートステイ	59 (16.3)	284 (78.2)	20 (5.5)
デイサービス	57 (15.7)	286 (78.8)	20 (5.5)

かった。「ショートステイ」の希望は幅広く、5,000円が約2割で最も多く3,000円以下が6割であった。

V. 考 察

1. 対象者の特性

今回協力いただいた施設は、未就園児を持つ母親の利用施設であり、幼児健診でのデータ数が多いものの幅広い対象より回答が得られたと考える。また『初経産別』や『子どもの性別』は分析する上で偏りが少ないデータであったと考える。さらに、対象者の年齢も現在の日本における出産年齢（厚生労働省，2019）と適合し、出産方法や出産施設も日本のデータ（公益財団法人母子衛生研究会，2019）に準じた割合であること、里帰りの有無も日本の特徴に準じている（ベネッセ教育総合研究所，2015）ことから、日本の一般的な対象者であったと考えられる。

2. 出産施設退院後から出産後1年までの困りごとの有無と内容

困りごとの有無と基本属性の関連で有意な関連がみられた『初経産別』では、初産婦は育児経験がないこと、『出生時体重』が2,500g未満の低出生体重児では、育児の上で特別な配慮が必要であるためと考える。『出産施設』では、総合病院で出産した母親の困りごとが多かったが、緊急時の対応や高度な医療介入が可能な施設であるため、身体的、社会的ハイリスク妊産婦が多いことが考えられる。『調査場所』ではイベント的な子育て広場が幼児健診よりも困りごとが多かった。イベント的な子育て広場は、保育士、保健師、助産師などの専門職による相談や子育て情報が得られる場であるため悩みを抱えた人が多いことが推察される。

困りごとの内容について1か月健診までは「授乳」「寝不足」「子どもの泣き」「上の子の世話」「家事」の順に多かった。これらは順位は変わるものの、その後の時期でも上位を占めていた。退院後の育児の心配事の上位は授乳、泣き、不眠などである（島田他，2006，唐田，2008，神庭，藤生，2003）といわれている。さらにこれらは2001年の時点で1990年代から心配事の傾向は変化がなく、心配する人の割合は変化なしが増している（島田他，2001）と報告されている。以上のことから母親の困りごとの内容は、産後の支援に注目される以前と比較してもほとんど変わらない。つまり、新たに様々な支

援が取り組まれているものの、母親の困りごととは変化していないといえる。特に「授乳」は入院期間の短縮に伴い、出産施設だけの援助にも限界がある（秦，長田，藤田，西村，2009）ことや、母乳育児が安定しないまま退院を余儀なくされ、さらに乳房の変化が著しいため不安が増大する時期であるといえる。また「授乳」「寝不足」「泣き」は初産婦に多く、経産婦では「上の子の世話」「家事」が多かった。特に「上の子の世話」は産後日数が経過しても横ばいであった。安永，新小田（2015）は、初産婦は「授乳」や「児が泣くこと」が多く、経産婦では「上の子」に対して多くの不安を感じていたと述べており同様の結果であった。

「家事」については1か月健診以降『初経産別』で有意な関連がみられていない。里帰りの場合、半数以上が「満1か月児になったころまで」（ベネッセ教育総合研究所，2015）であり、里帰りの割合が高い初産婦が自宅に戻り、経産婦と同様「家事」が上位になるといえる。

『里帰りの有無』と困りごと内容との関連では、出産施設退院後から1か月健診の間で「授乳」「上の子の世話」「家事」に有意な関連がみられた。これは初産婦の方が里帰りの割合が高いことの影響と考える。また里帰りをしていても授乳に困るのは、松永（2008）が祖父母世代からのアドバイスは現在育児をしている女性の世代にはマッチしていないためサポートになりえていないということも否定できないと述べているように、母乳育児の知識は時代と共に変化しているためと考える。「子どもの泣き」は1か月健診以降に、「寝不足」「抱っこ」は3、4か月健診以降に有意な関連がみられた。これは授乳同様里帰り有群に初産婦が多いこと、自宅に戻り両親の支援がなくなったことの影響と考えられる。

『子どもの性別』では、主に育児技術に有意な関連がみられた。井倉，宮崎，柳瀬（2018）は、0～1歳の児を持つ母親を対象に育児ストレスの調査を行った結果、男児の母親は女児の母親よりも子どもの気が散りやすい、子どもに問題を感じると考えていることを明らかにし、性差によって育児不安の違いがみられたと報告している。今回の調査でも性別により育児技術に有意な関連がみられたことは、母親と子どもの性別の違いから生じるものか、実際にどのような点で異なるのか、今後、子育て支援をする上で明らかにする必要があると考える。乳児は性差はないと考えがちであるが、支援を考える上では子どもの性別も考慮していく必要があるといえる。

3. 出産施設退院後から出産後1年までの困りごとの対処と希望支援

困りごとの対処は全ての時期において「家族のサポート」が最も多く、特に夫と実母の支援であり、これは坂梨他（2014）の研究と同様の結果であった。さらに松永（2008）の研究で、実際に受けたサポートは実父母あるいは夫と親族からのものが70%であったという結果とも同様で、約10年前と対処にも変化はない。以前と変わらず身近な家族で対処している現状が明らかになった。「家事」「寝不足」「上の子の世話」は家族で対応可能と考えるが、「授乳」は時代の変化や、母乳育児の経験がない親世代もいるため、必ずしも適切な支援が受けられるとはいえない。また親世代も核家族の中で育っており、子どもと接する機会が少なく育児の知識も薄れている（宮本，2001）ことや、初産婦の夫も現代の母親と同じ状況であることが予想される。角川（2009）は1歳半の児を持つ母親への調査から、子育てにおいて祖母との育児観による違いからストレスを感じている母親は1割であり、考え方に相違はあってもストレスを感じていない現状を明らかにしている。今回の調査でも母親は、全ての期間で実母や夫の支援を希望することや、祖父母たちが自己の育児経験とは異なる新しい育児情報を求めている（石井，井出，佐藤，林，2011）ことから、親世代も育児に協力する意欲はあり、地域で取り組まれつつある祖父母対象の孫育児支援も積極的に進める必要があると考える。

今回の調査から、専門職の支援の活用は1か月健診までは出産施設の健診が20.7%と一番多く、その他は10%以下であった。初産婦の方が専門職の支援が多い結果であり、これは困りごとの内容によるものと推察できる。松永（2008）は専門家から育児に関するアドバイスや相談を実際に受けている割合は決して多いとはいえないと述べており、専門職の支援の活用についても産後の支援に注目される以前と変化がない現状が明らかになった。

国は2014年の妊娠出産包括支援モデル事業として出産後の母子を助産所や産科の病床で支援する「産後ケア事業」を開始し、2015年から本格実施となり市町村の事業として取り組まれている（稲田他，2018）。今回の調査において、デイサービスは約5%、ショートステイは約0.5%の活用であった。稲田他（2018）の調査でも年間数件の利用状況である施設が多かったと報告されている。宿泊型の1泊の利用料金の平均は¥26,232であり、利用者負担が大きく公費負担があっても利用制限の条件

に適合しない産婦が産後ケアを利用できないなど、利用者のニーズと事業運営の乖離を指摘している（稲田他，2018）と述べている。今回の調査でショートステイの希望金額は約8割が5,000円以下であり、実際の金額とかけ離れていることは利用しない理由の一つといえる。また、全国で産後ケア施設開設後、約5年経過しても認知度は約16%であることは、情報提供が十分でないことも原因の一つといえる。活用しやすい支援への検討も必要であるが、それ以上に情報提供も必要といえよう。

今回、さらに希望する支援は家族からの支援が最も多かった。坂梨他（2014）は母親が退院後の支援で重要視していたのは「退院後の支援形態」「支援内容」「利用期間・頻度・時期」「費用」の順であったと述べている。このことから、最も身近で費用かかからず安心な家族の支援を求めるのは当然であり、それが母親の希望であれば家族がより支援しやすいように環境を整えるべきである。夫の育児休暇取得率上昇のための社会の動きはあるものの現状は難しい。また、たとえ取得できてもタイミングを勘違いしている場合も多く、その点の教育も必要である。厚生労働省（2019）によると、令和元年の女性の年齢階級別労働力率は過去最高水準となり、10年前と比べ全ての年齢階級で労働力率は上昇し、上昇幅が最も大きいのは「60～64歳」であると報告している。この年代は祖母世代であり産後の支援と仕事の両立が必要になる場合もある。里帰りをしても昼間は母親ひとりでの育児も予測できるため、夫だけでなく祖母も仕事との調整が必要になるといえる。

家族の支援に次いで希望が多かったのは家事ヘルパーであった。『初経産別』では家事ヘルパーや非専門職の支援に有意な関連があり、初産婦が専門職を希望する一方で経産婦は非専門職を希望していた。これは経産婦の困りごとである「上の子の世話」「家事」では人手が必要であることが伺える。しかし実際の活用は0.5～2.0%で、認知度が3割以下であり、認知度が低ければ当然活用には至らないであろう。

産後の母親たちは身近な支援にとどまり、行政などによる産後の支援はあまり活用していないこと、また希望も多くないことが明らかになった。認知度からも必要な情報提供がされていないことも伺えた。産後の支援を整えても、情報提供が不十分であれば活用には至らず、現代の母親たちは産後のイメージがつきにくいことから妊娠中に自ら事前準備をすることは難しいため、タイムリーな情報提供と具体的な支援策の計画立案における支

援が望まれる。

VI. おわりに

今回の研究から以下のことが明らかになった。

- ・基本属性では初産婦，出生時体重2,500g未満，総合病院での出産，イベント的子育て広場参加者に困りごとが多かった。
- ・困りごとの内容は時期により順序は替わるものの「授乳」「寝不足」「子どもの泣き」「上の子の世話」「家事」が上位を占め，初産婦は「授乳」「不眠」「子どもの泣き」が，経産婦は「上の子の世話」「家事」が多かった。
- ・困りごとの対処は，全期間通して家族の支援が8割以上，さらに希望する支援も5割以上で，その他の支援を希望する母親はいるものの活用は少なく認知度も低かった。
- ・困りごとの内容と対処は，産後の支援に注目される以前とほとんど変化がない現状が明らかとなった。

今回の結果は一部の地域での調査であるため，今後は調査地域を拡大し，比較することで地域の特性を浮き彫りにし，具体的な支援の検討を今後の課題としたい。

謝 辞

本研究にご協力いただきました対象者の皆様，協力施設の皆様，ご指導くださいました先生方に深謝いたします。

なお，本研究は，平成29～令和3年度科学研究費補助金（基盤研究C 課題番号17K12356）による研究の一部である。

文 献

- ベネッセ教育総合研究所. (2015). 産前産後の生活とサポートについての調査レポート, 2-15.
- 秦幸智美, 長田昭夫, 藤田小矢香, 西村正子. (2009). 初産婦に対する母乳栄養と産後の不安に向けての支援—家庭訪問と電話訪問を比較して—. *母性衛生*, 50(2), 461-467.
- 井倉一政, 宮崎つた子, 柳瀬幸子. (2018). 0～1歳児を子育て中の母親の育児ストレスと母親・子どもの属性との関連. *小児保健研究*, 77(3), 261-267.
- 稲田千晴, 島田真理恵, 相良有紀, 山本詩子, 岡本登美

子, 葛西圭子, 岡本喜代子. (2018). 産後ケアならびに産後ケア事業の実態調査. *母性衛生*, 58(4), 693-701.

石井邦子, 井出成美, 佐藤紀子, 林ひろみ. (2011). 孫育児に参加する祖父母が持つ孫育児支援に対するニーズ. *千葉看護学会誌*, 16(2), 27-34.

神庭純子, 藤生君江. (2003). 乳幼児をもつ母親の育児上の心配事 (第1報)1か月から3歳の縦断的検討. *小児保健研究*, 62(4), 504-510.

唐田順子. (2008). 病産院における子育てを見据えた産褥期の支援の実態と助産師の役割認識. *母性衛生*, 49(2), 357-365.

公益財団法人母子衛生研究会. (2019). *母子保健の主な統計* (pp. 48, 127). 東京都, 母子保健事業団.

公益社団法人日本産婦人科医会. (2017). *妊産婦メンタルヘルスマニュアル 産後ケアへの切れ目のない支援に向けて*. 東京都: 公益社団法人日本産婦人科医会.

厚生労働省. (2017). 子育て世代包括支援センター業務ガイドライン. <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/kosodatesedaigaidorain.pdf>.

厚生労働省. (2019). 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について (第15次報告). https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000190801_00003.html.

厚生労働省. (2019). 令和元年版働く女性の実情. <https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/19.html>.

厚生労働省. (2019). 令和元年人口動態統計月報告年計 (概数) の概況. (2019). <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai19/dl/h3-4.pdf>.

松永桂子. (2008). 産後1か月の女性が受けたと認識しているサポートと希望するサポート. *東邦大学医学部看護学科紀要*, 22, 17-26.

宮本久枝. (2001). 褥婦の生活支援ネットワークについて. *母性衛生*, 37(4), 464-472.

坂梨薫, 勝川由美, 水野祥子, 臼井雅美, 鍋田美咲. (2014). 産後退院後の母親が望む支援 4ヶ月未満の乳児をもつ母親の選好から. *関東学院看護学雑誌*, 1(1), 16-24.

島田三恵子, 渡部尚子, 神谷整子, 中根直子, 戸田律子,

- 梶俊彦, ……鈴木幸子. (2001). 産後1か月間の母子の心配事と子育て支援のニーズに関する全国調査初経産別, 職業の有無による検討. *小児保健研究*, 60(5), 671-679.
- 島田三恵子, 杉本充弘, 梶俊彦, 新田紀枝, 関和夫, 大橋一友, ……盛山幸子. (2006). 産後1か月間の母子の心配事と子育て支援のニーズおよび育児環境に関する全国調査—「健やか親子21」5年後の初経産別, 職業の有無による比較検討—. *小児保健研究*, 65(6), 752-762.
- 角川志穂. (2009). 子育て支援に向けた祖父母学級導入の検討. *母性衛生*, 50(2), 300-309.
- 竹田省. (2016). 厚生労働科学研究費補助金 生育疾患克服等次世代育成基盤研究事業報告書妊産婦の自殺—その実態. <http://www.jaog.or.jp/wp/wp-content/uploads/2017/11/11643745157d48555ead55ae19d42a0a.pdf>.
- 鷺尾喜久代, 馬場未来, 木村幸子, 出石万希子, 中井恭子. (2013). A病院における産後2週間健康診査の現状と意義. *滋賀母性衛生学会誌*, 13, 40-45.
- 安永朱里, 新小田春美. (2015). 新生児訪問指導事業の活用を高めるための専門職による支援方法の検討. *三重看護学誌*, 17, 23-34.